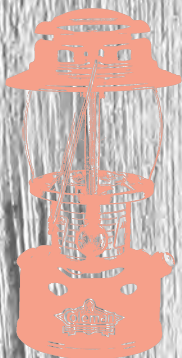


635-054J



AMERICAN HERITAGE



635 White Gasoline Lantern

Made in U.S.A.

警告

1. この器具は屋外専用です。使用中は多量に酸素を消費します。屋内、車内、テントの中もしくは換気の悪い場所では使用しないでください。
2. コールマン純正ホワイトガソリンは発火点が低く大変危険です。火気からは1 m以上離して使用し、取扱いには充分注意してください。
3. 可燃物、引火物の近くでは使用しないでください。
4. 燃料の給油及び点火作業の際にはまわりに火気のない、換気の良い場所で行ってください。室内、車内等換気の悪い場所、火の気のそば及びくわえタバコ等での作業は絶対にしないでください。
5. 使用中もしくは消火後の燃料タンクが熱せられている時は、絶対に燃料キャップを開けたり、給油作業をしないでください。

注意

1. 使用する前に必ず取扱説明書をよくお読みください。
2. この器具は屋外専用照明器具です。その他の目的に使用したり改造したりしないでください。
3. 燃料はコールマン純正ホワイトガソリンをご使用ください。非常時には自動車用無鉛ガソリンも使用できますが、無鉛ガソリンを連続使用するとジェネレーター内部が詰まり、交換が必要となります。
4. 燃料は火気の近く、湿度が高い、高温な車内等温度が40度以上になる場所には保管、放置しないでください。
5. 使用中や使用直後は、グローブ、ペンチレーターなどの部分は高温になっていますので手を触れないでください。やけど等の原因になります。
6. テント、スリーピングバッグ、衣類等の燃えやすい物からは、上部1.2m以上、左右50cm以上離してお使いください。
7. 子供、幼児の手の届く所に置かないでください。
8. 専用の付属品以外の物を使用すると本体部分に変色したり、思わぬ事故になることがありますので使用しないでください。

純正燃料

アメリカコールマン本社の、分析表をもとに精製した、高純度ホワイトガソリン。



4ℓ



1ℓ

失敗しない燃料注入方法

新しい4リットル缶からこぼさない注ぎ方は、注ぎ口を上にして缶の中に空気が入りやすくすると、簡単に入れられる。



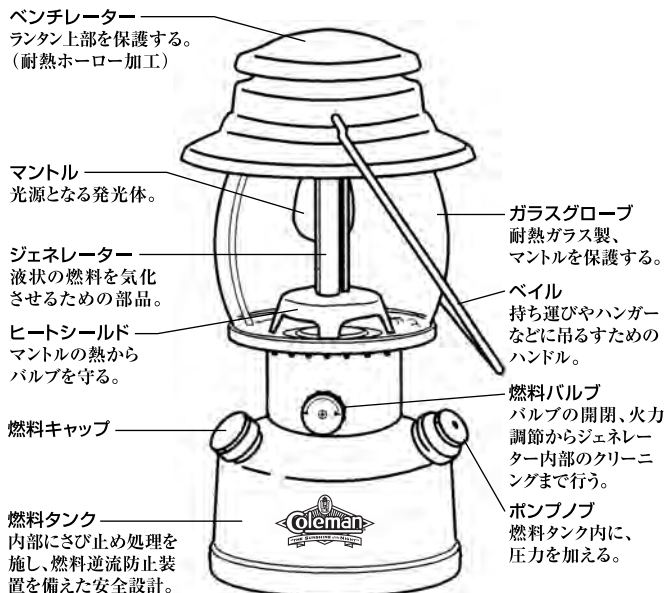
注ぎ口を上にして、この角度から入れるとこぼさない。



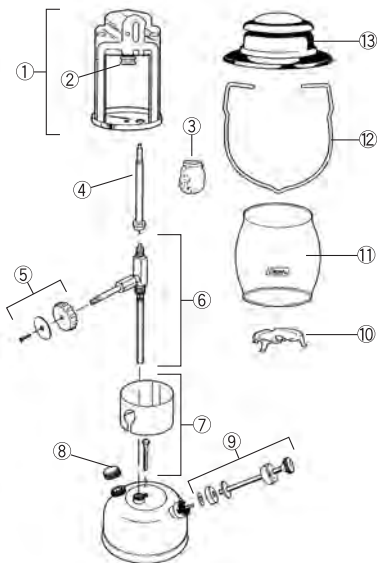
目次

警告・注意	2
純正燃料	3
失敗しない燃料注入方法	3
ランタン各部の名称と役割	4
分解図とパーツリスト	5
ガソリンタイプの燃焼器具の基本的な仕組み	6
正確で力強いポンピングによる空気圧が最大のポイント	6
空気圧不足が燃焼不良の原因	6
高い空気圧が強火力の秘訣	6
1 燃料を入れる	7
2 マントルをつける	8
3 ポンピング	9
ポンピング操作上の注意	10
チェックバルブ機能の点検	10
4 カラヤキをする	11
カラヤキ時の注意	11
5 点火・光量調節	11
点火時の注意	12
6 消火	13
7 収納・保管	13
8 メンテナンス	14
ジェネレーター交換の手順	14
ポンプカップ交換の手順	15

ランタン各部の名称と役割



635Bランタン 分解図とパーツリスト



パーツNO.

- ①635-3281
- ②635-3155
- ③11-102J
- ④635-5891
- ⑤200-1521
- ⑥635-6571
- ⑦635-5281J
- ⑧220C1401
- ⑨220A6201
- ⑩635-1151
- ⑪690-0581
- ⑫635B4231
- ⑬639A4851

英語名

- Burner Assy.
- Burner Cap
- Mantle
- Generator
- Knob Assy.
- Valve Assy.
- Collar and Bolt
- Fuel Cap
- Pump Plunger Assy.
- Heat Shield
- Globe
- Bail Handle
- Ventilator

パーツ名

- バーナー一式
- バーナーキャップ
- マントル
- ジェネレーター
- ノブ一式
- バルブ一式
- カラー・フレイムボルト
- 燃料キャップ
- ポンププランジャー一式
- ヒートシールド (遮熱板)
- グローブ (#550)
- ベイルハンドル
- ベンチレーター

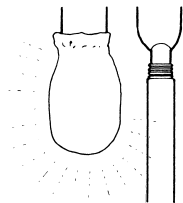
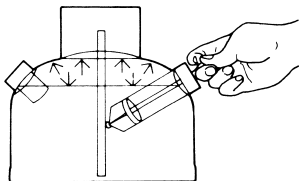
表示のパーツリストは2006年1月1日現在のものです。組み合わせは、予告なく変更することがあります。

ガソリントイプ燃焼器具の基本的な仕組み

正確で力強いポンピングによる空気圧が最大のポイント

コールマンの、ガソリンを燃料とする燃焼器具は、すべての共通システムになっている。

- ①ポンピングで、燃料タンク内に空気圧を加える。
- ③バーナーやマンツルの燃える熱で、ジェネレーター内部を通る燃料が気化される。



- ②燃料バルブの操作で、圧力のかかった燃料が空気と一緒に、噴霧状になってジェネレーター内に送られる。
- ④気化された燃料が、大気中の酸素と混じりあって燃えるので、ススの出ない地球環境にやさしい、クリーンな炎で燃焼する。



高い空気圧が強火力の秘訣

ジェネレーター内に送りこまれる燃料が、噴霧状になることが気化させるポイントとなる。空気圧が高いほど勢いよく押し出され、噴霧状になりやすく気化しやすい。したがって、空気圧が高いほど点火操作も簡単で、効率よくきれいな燃焼が得られる。

燃料は純正ホワイトガソリン

燃料はコールマン純正ホワイトガソリンもしくは自動車用無鉛ガソリンをご使用ください。その他のハイオクガソリン、ケロシン（白灯油）等は使用しないでください。故障の原因となります。

空気圧不足が燃焼不良の原因

燃焼不良の原因のほとんどが、空気圧不足。必ず固くなるまで強くポンピングし、連続使用する場合は、頻繁にポンピングする。

修理

ランタンの修理は、グローブとベンチレーターをはずし、燃料を抜いて、保証書と一緒に、お買い求めの販売店にご依頼ください。

1 燃料を入れる



必ず、アウトドア（屋外）の火気のない所で行ってください。

- ①燃料バルブを右に止まるまでまわす。



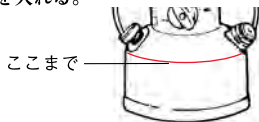
- ②ポンプノブを、右に止まるまでまわす。



- ③燃料キャップをはずす。



- ④ランタンを水平に置いて、注入口からあふれない位（8分目程度）に燃料を入れる。



- ⑤燃料キャップを、固めにしめる。

燃料満タンの目安

ガソリンフィルターを使った場合

- ①ランタンを水平に置き、ガソリンフィルターを正確に押し込み、燃料を入れる。



- ②缶から燃料が入らなくなったら、注入をストップ。ちょうど満タンの量になる。

⚠ 本製品にフューエルファネルを使って燃料を入れる場合、燃料注入後にファネルを燃料タンクから持ち上げたときに、ファネル内の余ったガソリンがファネルの注ぎ口からこぼれます。燃料タンク内の注油量を目視で確認しながら燃料を入れてください。

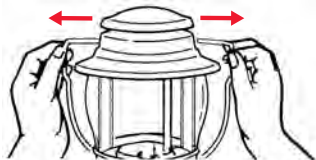
⚠ 燃料の入れ過ぎに注意

燃料を入れ過ぎるとポンピングにより加圧するスペースがなくなり、液状のままのガソリンがマントル部に放出され、不完全燃焼の原因になります。また、燃料が少な過ぎると炎が途切れたり、不安定な燃焼になります。

2マントルをつける

必ず、コールマン純正マントルをご使用ください。

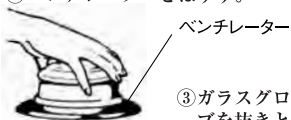
① ベイルをはずす。



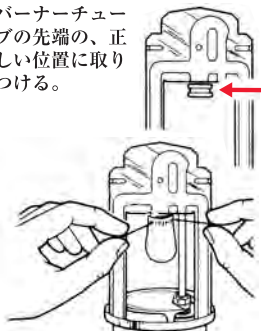
⑤ ひもを二重に仮結びする。



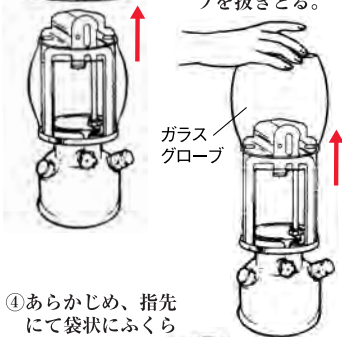
② ベンチレーターをはずす。



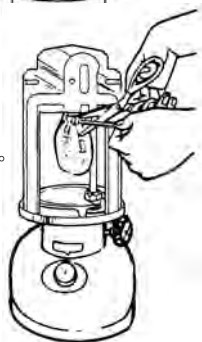
⑥ パーナーチューブの先端の、正しい位置に取りつける。



③ ガラスグローブを抜きとる。



⑦ しわが均等になるように整えて、余ったひもは切りとる。



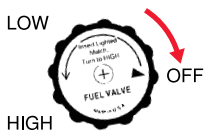
④ あらかじめ、指先にて袋状にふくらませる。



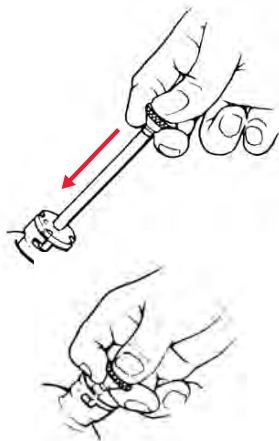
3ポンピング

燃料タンク内に空気圧を加えます。

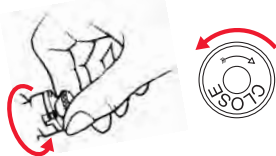
- ①燃料バルブを右に止まるまでまわす。



- ④手前に引いて、奥まで押しこむ正確なストロークを繰り返す。



- ②ポンプノブを、左に2回転させる。



⚠ 固くて回らない時はプライヤー等で左に回してください。(特に新品購入時は固い場合があります。)

- ③親指でポンプノブの穴を押さえ、人差し指と中指を添える。



⚠ ポンピング時に引っかかり等を感じる場合はリユブリカントを注入してください。

- ⑤ 50回以上固くなるまでポンピングする。

- ⑥ ノブを押し込んで、右に止まるまで回す。



ポンピング操作上の注意

⚠ ポンプカップの乾燥

ポンプカップが乾燥していると、ポンピングしてもひっかかる感じや軽すぎる感じで、空気が入らない。ポンプキャップの「OIL」と表示のある穴から、リユブリカントを2～3滴注入する。



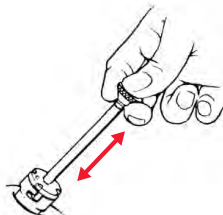
リユブリカント
ポンプカップ専用特殊オイル

⚠ 乾燥した状態で、無理にポンピングすると、ポンプカップがめくれるなど、破損の原因となる。



⚠ ポンピングは正確に

燃料タンクに垂直になるように、正しくストロークする。力を入れ過ぎて、間違った方向に押すと、エアーステムを曲げるなど、故障の原因となる。



⚠ ポンピング時は、引き過ぎに注意

ポンピングをする際、手前に引く時は8分目位の所までとし、最後まで引っ張らないこと。引っ張り過ぎるとプッシュオンナットが外れ、ポンプブランジャーが外れる場合がある。外れた場合はP.15の組み立て方を参照してください。

チェックバルブ機能の点検

⚠ ポンピング操作直後に点検する

ポンプノブ先端の穴から燃料が吹きでる場合は、チェックバルブ機能不良。空気圧を抜いて修理に出す。



4カラヤキをする

取りつけたマンテルは、点火前に燃料を出さないで燃やし、灰状にする。これをカラヤキという。

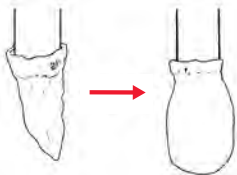
①取りつけたマンテルは、約7.5cmの長さ。

②マンテル下部から均等に火をつけて、完全に灰状になるまで燃やす。

⚠ 途中で火が消えて火をつけると穴があく場合があります。必ず最後までカラヤキしてください。



③カラヤキしたマンテルは、約5cmに縮んで小さくなるが、点火すると丸みを帯びた形にふくらみ、形状を保つ強度がでる。



カラヤキ後

点火後

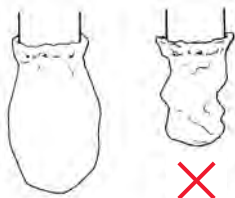
点火の前に、燃やして灰状にします。

カラヤキ時の注意

カラヤキしたマンテルは、もろくなり強い衝撃や指先でも簡単に破損する。



カラヤキの途中やカラヤキしないで点火すると、縮みが激しく、いびつな形状で小さくなる。必ず、完全にカラヤキしてから点火する。



片寄ったカラヤキは、マンテル破損の原因になる。下部から均等に火をつける。

⚠ 風の強いところで作業するとマンテルを破損する恐れがあります。

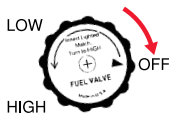
⚠ マンテルは消耗品です。常時予備のマンテルをご用意ください。穴のあいたマンテルをそのまま使用するとグローブの破損または異常過熱の原因となります。

5 点火・光量調節

- ①燃料バルブを左に少しまわしシューという音から燃料の出るジジジという音に変わるまで待つ。

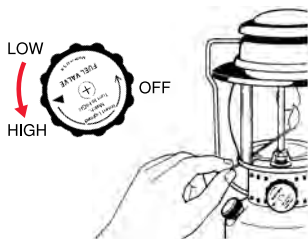


- ②燃料の出る音に変わったら、燃料バルブをOFFにもどし、約10秒間おいで生ガスをにがす。



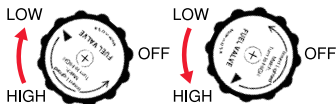
- ③マンツルの破損に注意しながら再度充分ポンピングする。

- ④フレーム底部の穴から、柄の長いライターなどの火を入れ、燃料バルブを「HIGH」にセットすると点火する。



- ⑤点火直後、さらに20回以上、炎が安定するまでポンピングする。

- ⑥明るさの調節は燃料バルブで。



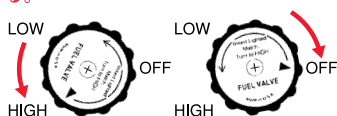
点火時の注意

⚠ 炎は上にあがるので、点火するとき、ランタンの上にかがみこまない。

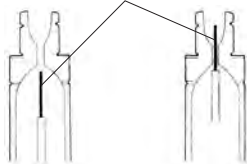
⚠ 必ず、火を入れてから燃料バルブを開いてください。先に燃料バルブを開くと不完全燃焼の原因になります。

⚠ マントル以外から炎が出る場合は燃料の出すぎか燃料漏れが原因。燃料バルブを右に止まるまでまわし、消火します。再度取扱説明書をよく読んで、正しい手順で点火操作を行う。

⚠ 正確な操作で点火しても、ついたり消えたりして安定しない場合は、燃料バルブを左右に素早く2～3回まわします。ジェネレーター内部のクリーニングロッドが上下し、ジェネレーター先端の小さな穴を掃除して、燃料の通りをよくし、すぐに安定した炎に変わります。



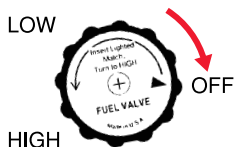
クリーニングロッド



ジェネレーター先端部

6 消火

①燃料バルブを右に止まるまでまわす。



②ジェネレーター内部に残っているガスがなくなるまで燃えるが、しばらくすると消える。

7 収納・保管



ランタン本体が完全に冷えてから行う。

①車のトランクなどで運ぶ時や、使用後に保管する場合、短期間であれば燃料を抜き取る必要はありませんが、空気圧は抜いてください。空気圧は燃料キャップを徐々に緩めると抜けます。



②シーズンオフ等で長期間（半年以上）保管する場合は、燃料を完全に使いきって、タンク内を空にしてください。完全に燃料を抜く場合は別売りの「残ガス抜き取りポンプ」を使うと便利です。

③幼児、子供の手の届く所に保管しない。



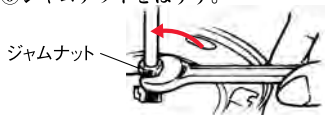
器具を収納・保管・運搬する場合は、火気の近く、湿度が高い、高温な車内等温度が40度以上になる場所には収納・保管しないでください。

8メンテナンス ジェネレーター交換の手順

点火しにくい、いつもより暗い。光量の調節ができなくなった。
このような場合は、ジェネレーター交換してください。

⚠️ 必ず、火気のない所で行ってください。

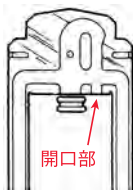
- ① 燃料バルブを右に止まるまでし、燃料キャップを緩め、タンク内の空気圧を抜く。
- ② ボールナットをはずす。
- ③ ベンチレーターをはずす。
- ④ ガラスグローブを抜きとり、ヒートシールドをはずす。
(以上P.8の図を参照)
- ⑤ ジャムナットをはずす。
- ⑧ ジェネレーターのクリーニングロッドを約1cm引き出し、バルブ先端の穴に引っかける。



- ⑥ ジェネレーターを持ち上げ、クリーニングロッドをはずす。



- ⑦ 新しいジェネレーターの先端をバーナー式の開口部に差し込む。



- ⑨ 燃料バルブを左に止まるまで回してクリーニングロッドを下げた状態にする。
- ⑩ クリーニングロッドを曲げないようにジェネレーターを下に降ろす。
- ⑪ ジャムナットを、しっかり締める。
- ⑫ ④～①の手順で組み立てて、交換完了。

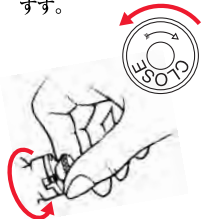
⚠️ 交換後点火操作を行い、燃料漏れがないか確認する。

ジェネレーターは消耗品です。常時、予備のジェネレーターをご用意ください。

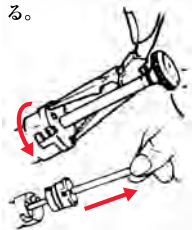
ポンプカップ交換の手順

- ⚠ ポンプカップ破損、損傷または外れた時は、ポンピングしても空気が入りません。
ポンプカップを交換するか、再度組み立て直してください。

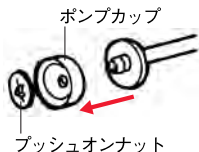
- ① ポンプノブを左に10回転以上回し、チェックバルブからエアーステムをははずす。



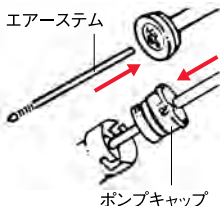
- ② ラジオペンチなどで、ポンプキャップを左にまわし、ポンプノブを抜きとる。



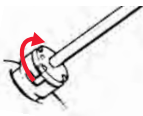
- ③ ポンプカップを固定している、プッシュオンナットをはずし、損傷したポンプカップを取りのぞく。



- ④ ポンプカップにリュブリカント（専用特殊オイル）をつけ、エアーステムをポンプブランジャーの中に入れ、ポンプノブをセットする。



- ⑤ ポンプキャップを固定する。

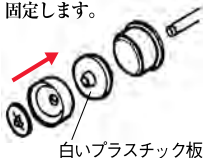


- ⑥ ポンプノブを右に止まるまでまわして、交換完了。



ポンプブランジャーの組立て方法

- ⚠ ポンプカップが外れてしまった場合は、ポンプキャップを外すと中にエアーステム、白いプラスチック板、ポンプカップ、プッシュオンナットがシリンダー内に残っているはずですので、それを取り出す。エアーステムは左に10回転以上回すと取れます。ポンプキャップ、白いプラスチック板（向きに注意）、ポンプカップ、プッシュオンナットの順で組み立て、固定します。



- ⚠ ②の段階で、エアーステムに曲がりがないか確認し、変形していたら交換してください。

- ⚠ エアーステムが曲がっていると、ポンピング操作が固くなり、チェックバルブ破損の原因になります。

常時、ポンプリペアキットの携行をお勧めします。